

# 強者の戦略

こんにちは！地理の南です。前回、ついに学問畑を脱し、一般社会へ埋没していくことを決めた話までしましたね。博士課程に進むことに向いていないから就職しようという、これまた消去法的な形にはなりましたが、もうこのへんは仕方がないでしょう。世間の4年生とかも、卒業する時期が来たから就職活動する訳で、岡内先生の好きなフレーズ“人間はなりたいたいものになる”というように、“なりたいたいもの”が決まっている人はわずかなはずです。

3年生から4年生にかけて就職活動をしなかった私は、とっかかりから何をすればいいのか分かりませんでした。普通に進学すれば、私の友人は修士2年生になっているので、就職が決まっている人もいました。その中で、Z会に就職が決まっていたO・N君に手ほどきを受けました。3年生の終わりから2年経ったこのころには(2001年)、ネット社会が当たり前のもとなっていて、就職活動の基本は行きたい会社のホームページに行き、説明会にエントリーすることから始まるようでした。私の第一志望は2年前と変わらずNHKです。3年生のときに適当に書いたエントリーシートは当然ながら不合格だったのですが、今回は本気度が違いますので丁寧に書き上げようと思いました。でも、どうやったら丁寧に書けるか分からないのでO・N君に聞くと、『面接の達人』(通称“メンタツ”)なる本を紹介されました。“ほー、就職業界にはこんな本があったのかー”と感心して本屋を探すと、『エントリーシートの達人』とかもあって、色々購入しました。この本で学んだことが現在、医学部志望者がやってきて、自己推薦書の添削をするときや、面接練習するときに生きています。人生、何がどう功を奏するかは分かりませんね。

この本によると、就活生が志望している企業に対して「入りたいんです！」と訴えてみても、他の就活生と差をつけることは出来ないようです。口だけで色々言うことは可能ですからね。そこで、同種の他の企業を研究、志望している企業の良さ・悪さを

## ～就職活動(1)～

分析し、どういうことに魅力を感じて就職を希望したか言えるようにします。次に、「うちの企業に入ったら、君はどんな風に貢献してくれるのかなあ」という問いに答えられるようにします。この問いは難しいですよ。周りの就活生よりも私が優れている、私はこんな貢献ができると大手を振って発言することは控えめな日本人としては気が引けます。でも、ここでひるんではいけません。ガンガン自己PRをしていくべきなのです。「御社には〇〇という部門がありますが、私がおその部門に配属された限りには△△という改革を行って、より素晴らしい部門に変えていくことができます」などと大風呂敷を広げるわけです。でも、これも口先でウソをついている可能性があります。企業としては、「君の言っているように改革できる自信はどこから来るのかね」という問いを発してきます。ここで、自分の発言にリアリティを付けるためには、今までやってきた活動に関して述べるのです。就職している学生は、今までに経験してきたことを集めた存在です。つらい経験、楽しかった経験、クラブの経験、受験勉強の経験、それぞれを乗り越えて、能力は高まるのです。ここを話さないと、あなたの発言力を証明することはできません。「私はクラブ活動をしていたときに部長を務め、以前の体制から変革いたしました。部員と話し合っ、顧問と話し合っ、折り合いを付けてきました。なので、御社に入っても、先輩や後輩としっかりと話し合い、良い体制に変えていくことはできます」と話せば、企業側も納得します。

まあ、こういったことを“メンタツ”の本やO・N君から教えられながら、NHKのエントリーシートを書きあげます。北白川にかつてあったバッチョングセンターでひとしきり卓球を楽しんだ後に、すぐ横の王将でエントリーシートの添削もしてもらいました。そして、王将の中で面接の練習までしてもらいました。O・N君ありがとう。でも、NHKのエントリーシートは不合格になりました。挫折…。二度目のエントリーシートも無理だったか…。でも、

# 強者の戦略

落ち込んでいる暇はありません。せつせと就職活動を続けないと未来は開けません。ただ、ここでネックになったのは年齢です。普通の3年生から4年生にかけての時期の就職活動ではないので、年齢制限が引かかるようになっていたのです。しかも私は1年浪人していますしね。文系で大学院に進むと、就職の幅が狭くなりますよ。お気を付けて。

フジテレビや日本放送などの大手には年齢制限で就職できなかったのも、他の企業を探します。ABC朝日放送、MBS毎日放送、WOWOW、SONY MUSIC ENTERTAINMENT、エイベックス、後は研伸館です。テレビ・音楽業界は最大手ばかりだったので、確実に就職できるわけではありませんでした。でも、就職浪人したって年齢制限でより厳しくなるので、それも難しいと判断しました。この当時は、母親の体調も優れなくなって来ていたので、とにかく就職しないといけないと思い、研伸館も受けていました。私は塾講師でバリバリ教えていましたし、研伸館はかつて通っていた予備校だったので、落とされることはないだろうとは思っていました。これぐらいの自信があったっていいですよ(笑)。

さて、志望する企業が決まったら、説明会参加とエントリーシート作成の日々が続きます。エントリーシートはなめてはいけません。一社作成するのにも3日間くらいはかかりますよ。漢字だって間違えられませんからね。あと、「みんなの就職活動日記」みたいなサイトに登録しました。今は、ツイッターやLINEなどが発展しているのでどうなっているかは分かりませんが、昔は、企業の採用面接を受けた人が、自分がどんなことを聞かれてどんなことを答えたかを書き込む掲示板的な感じでした。行きたい企業の面接がどういうことを聞かれているかを知ることが大切なことですよ。なかなかいいサイトだったんじゃないかと思います。

最初の説明会は懐かしの研伸館です。高校3年生のときは西宮校しか行ったことがなかったのですが、場所は上本町校でした。話者は今村先生と水田先生

でした。今村先生は、就活生に対してもカリスマ全開でまくしたてるように話し、水田先生はIT技術を活かして波の動きをグラフィックを活用して説明していました。そして、アップの重鎮みたいな人が出てきて、「アップの説明会のいいところは、君たちの質問にざっくばらんに答えるところなのです、何でも今村さんや水田さんに質問を投げかけてください」と発言しました。すると、ある男性が手を挙げて、「予備校講師は時間の使い方が難しいと思います、仕事とプライベートの線引きはどうやってやっているのでしょうか？」と質問しました。何て真面目で優等生的な就活生なんだろうと感心してしまいました。今村先生がどんな回答をなされたかは忘れましたが、その質問者が実は笹谷先生だったことは発覚しています(笑)。後日、面接の日が来て指定された場所に行くと、5人ぐらいで部屋に通されました。研伸館はグループ面接だったのです。正直、何の志望動機も考えていなかったのも、最初に当てられたら困っていたと思いますが、幸い私の座った位置は最後の方に質問されるようなところでした。偶然、社長が居合わせて、社長面談になりました。普通の企業では珍しいらしいです。で、社長が「これからはグローバル化していきます。みなさんは自分の教えた科目を英語で教える自信がありますか？」と聞いてきました。当然みんな教えられますと答えていきます。無理って言ったら落とされることは自明だからです。私は、前までの人の発言を聞いているうちに普通の回答では面白くないなと思って、「自分は社会を教えようと思っていて、英語で教えることはできます。しかし、英語だけで満足なのでしょうか。これからはアジアからどんどん人がやってきて、そういう人達の子どもを教育しなければならなくなります。私は中国語でも韓国語でも教えることができます」と答えました。結局、このグループ面接で就職が決まりましたので、攻めた発言をして良かったと思います。ただ、入社決定は遅らせてもらいました。まだ、他の企業の選考が進

# 強者の戦略

んでいましたからね。

今回は、音楽業界やテレビ業界の就職活動の話が少なめになってしまったので、次回はそのへんの話と、そして、文学部で起こった由々しき事件について話をしていこうと思います。では、また次回で。

《参考：NHKのエントリーシートの記入項目》

1. NHKでやってみたい仕事を具体的に述べてください。
2. あなたが働く場として、NHKを志望した理由を述べてください。
3. 「NHK」あるいは「NHKの番組」について考えていることを具体的に述べてください。
4. あなた自身を自己分析してください。
5. 学校生活を通じて特に得たもの、感じたことなどを自由に述べてください。
6. 最近興味を持った出来事、印象深かった出来事
7. 最近興味を持って視聴した番組
8. 私の作ってみたい番組
9. 得意な学科
10. 得意な外国語
11. 特に力を入れて勉強したことから
12. 自由記述(これまでの記述の補足や、あなたの意見・考えなど自由に述べてください)